

太郎物語

issei111

薫子と

その視線の先には...!

なんと同じ会社で憧れの女性、薫子が立っていた。

「か、薫子さん...」

太郎はつい驚きと恥ずかしさで声が出た。

初めて会社で出会った時、まさに一目ぼれであった。

そして、その時願わずともととのってしまったのであった。

「薫子さんの美しさとかけまして、

アーノルドシュワルツネッガーが引越しの荷物運びを手伝ってくれますよ〜ととく、

その心は、どちらもよくモテ（持て）ます」

しかしよりによって、管理人さんに怒られてるところを見られるなんて・・・

いや、までよ??

おとうさん??・・・